

本日の為替見通し

ポイント

ギリシャ危機の回避するために必要なのは「IMF(財源拡大)、ESM の強化、ECB による非常に積極的な措置、これらの全てが必要」と、ボリス・スウェーデン財務相は語った。数多くの悲観的なコメントの中には、ギリシャを早くユーロから離脱させてドラクマに復活させ通貨切り下げで経済を立て直した方が、ユーロ圏のダメージはより少なく、ドイツがユーロ離脱するリスクに比べたら問題外とのこと……。

現在のギリシャ債務交換協議で分かりやすいコメントがレーン欧州委員よりあった。つまり、ギリシャは 2020 年までに公的債務を GDP 比 120%まで引き下げなければならないのが前提。

その目標を達成するためには、ギリシャへの第 2 次支援で、民間債権者との合意内容によっては、公的部門の不足分を補う必要もあり、ユーロ加盟国の各国政府や、EU 関係機関が不足分を補う必要が出てくる可能性がある。そして、ギリシャ国債を保有する欧州の公的機関は ECB のみで、ECB がその決定を下す必要があるとのこと……。ECB は 25 日・26 日の ECB 理事会でこれを協議しているとも言われているが、何も聞こえてはいない。

かつて、日本量的緩和実施し円安へ、かつて、米国 QE2 実施し、ドル安へ動いた。昨年 12 月 20 日にユーロ圏は 3 年物長期リファイナンス・オペ(LTRO)を実施、523 の金融機関に総額 4,891 億ユーロが供給、つまり量的緩和を実施した。

2010 年 11 月 23 日 FOMC は QE2 を実施、EURUSD1.32 台→2011 年 1 月 1.28 台へ上昇し(ドル高)→2011 年 5 月 1.49 台まで上昇(大幅なドル安)、2011 年 FOMC は QE2 を終了、EURUSD は現在に至っている(ドル高)。

つまり、この結果だけの動きに限定し、EURUSD に当てはめれば、ECB は量的緩和を実施し、一時的にユーロ高に動くことがあるが、半年後には EUR 安相場になる可能性も残るとの検証になるが、今回はそれが当てはまるのか、または、全く違う動きとなるのか……。

本日は米第 4 四半期 GDP・速報値の発表があり、前期比年率予想 3.0%(前期 1.8%) がメインイベントで相場変動が大きくなる。

また、今日は週末金曜日で、週明け 1 月 30 日(月曜)には、EU 財務相会合が、会合を前に週末に要人の発言や報道が多くなる可能性があり、ギリシャ債務交換協議は本日 28 日の再開が予定されており、民間と公的部門の負担がどのように決着されるかで、EUR は大きく動く可能性も否定できない。

マーケット・レベル



EURUSD(日足) = 25 日指数移動平均線は 1.2962 で、買いを継続。DOPup=1.3274, DOPdn=1.2623。スロー・ストキャスティックは %K = 87.58, %D = 79.67, 買いを継続しているが売りに変化する動きも、ベースは買われ過ぎゾーン。

EURJPY(日足) = 25 日指数移行平均線は 100.13 で、買いを継続。DOPup=102.41, DOPdn=97.72。スロー・ストキャスティックは %K = 88.67, %D = 79.75, 買いを継続しているが売りに変化する動きも、ベースは買われ過ぎゾーン。

USDJPY(日足) = 25 日指数移動平均線は 77.24, この線を上抜け買いを継続。DOPup=78.82, DOPdn=76.29。スロー・ストキャスティックは %K = 62.02, %D = 58.55 で、買いを継続しているが売りに変化する動きも、ベースはニュートラルに近い。

## 本日のCFD見直し

## ポイント

FOMCで低金利水準の維持を延長し継続することを発表、リスク資産の買いが強まったが、本日は金曜日で、翌週月曜日のEU首脳会議直前で、ギリシャ債務交換協議の行方など、週末リスクが強くなる。

特にEURやAUDの上昇に、商品相場が連動している可能性もあり、ポジション調整に動きやすくなっている。また、米第4四半期GDP速報値の前期比3.0%の予想と強い数字を市場がおり込んであり、数字によっては変動率が高くなり振れが大きくなりやすい。

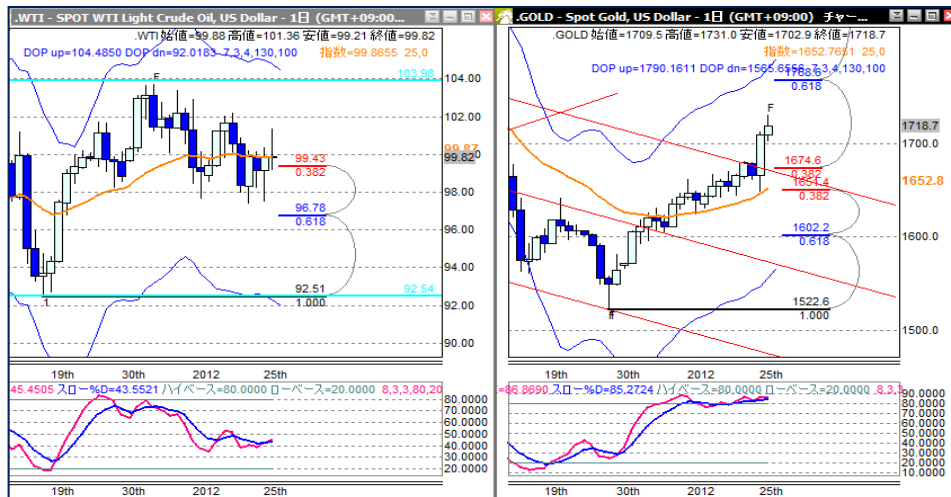
## ◎Spot.WTI(Light Crude Oil)

EMA99.87をかわろうじて上限に上げ止まっているが、ストキャスティクスはパターンの形成は不透明ではっきりとしないが、買いへ変化している可能性も残る。引き続き大枠92.50~104を抜け出すまでは、金価格のように方向性が見えてこない。上値のターゲットは、103.98、104.79。

## ◎Spot.Gold

EMAは1652.8で引き続きこの水準を上回り、長いダウントレンドの上限をブレイクし買いの流れが続いている。ストキャスティクスは買いすぎゾーンで長く推移し、パターンの形成は読み取れず、長い上昇トレンドに入っている場合の典型的な動きとなっている。上値のターゲットは1768.6、1780.33。下値のターゲットは、1674.6、1652.8。

## マーケット・レベル



Spot.WTI(Light Crude Oil) (.WTI 日足) = 25 日指数移動平均線は 99.87 で、引き続き終値ベースでこの線を上限に下げ止まっている。DOPup=104.79、DOPdn=92.32。スロー・ストキャスティックは%K=45.45、%D=43.55 で、サインは不透明ながら買いへ変化、ベースはニュートラル。

Spot.Gold(.GOLD 日足) = 25 日指数移行平均線は、1652.8、この線を下限に上昇が続いている。DOPup=1780.33、DOPdn=1555.82。スロー・ストキャスティックは%K=87.02、%D=85.32 で、売り買いが交錯、強いトレンドの影響なのか売りにならず、ベースは買われ過ぎゾーンで停滞。

## 1月27日(金曜日) 注目の経済指標 その他

## 注目されている発言・その他

- 09:00 ボラード NZ 中銀総裁 講演
  - 22:15 ドラギ ECB 総裁が欧州経済の見通しについて、ダボスの世界経済フォーラムで講演
  - 0:00 ダドリー NY 連銀総裁 (講演)
  - 19:00 イタリア短期国債入札
- 世界経済フォーラム(ダボス会議、~29日)

## 注目されている経済指標

- 17:00 CHF 1月 KOF スイス先行指数 = 予想 -0.1 前回 0.01
- 22:30 USD 第4四半期 GDP = 前期比年率予想 3.0%
- 22:30 USD ミシガン大学消費者信頼感 = 予想 74.0 前回 74.0

1月27日(金曜) 本日の主な経済指標と発表予定

6:45	NZD 12月 貿易収支=予想 前回-3.08億 NZドル
8:30	JPY 1月 東京都消費者物価指数=前年比予想-0.4% 前回-0.4%、除生鮮=前年比予想-0.3% 前回-0.3%
8:30	JPY 12月 全国消費者物価指数=前年比予想-0.2% 前回-0.5%、除生鮮=前年比予想-0.1% 前回-0.2%
17:00	CHF 1月 KOF スイス先行指数=予想-0.1 前回 0.01
22:30	USD 第4四半期 GDP=前期比年率予想 3.0% 前回 1.8%、個人消費支出=前期比予想 2.5% 前回 1.7%、コア PCE 価格指数=前期比予想 0.9% 前回 2.1%、GDP デフレーター=予想 前回 2.6%
22:30	USD ミシガン大学消費者信頼感=予想 74.0 前回 74.0、

昨日(1月26日)の海外市場の動き

米株価は下落(NY ダウ-22.33-0.18%)、欧州株価は上昇(独 DAX+118.00+1.84%、英 FTSE+72.20+1.26%)、Spot.Gold は上昇(+8.90+0.52%)、Spot.WTI「Light Crude Oil」は上昇(+0.14+0.14%)

◎NZ 中銀は政策金利 2.5%の据え置きを決定、予想通り→ NZDドルは上昇へ

◎ギリシャ債券交換協議は、民間部門で欧州各国の財務省がより負担を求め結論が出ず協議は継続されているが、IMF が求めた公的部門で ECB の負担が焦点になり議論を複雑にした、この件でのコメントは多いが総じてネガティブ → EUR 売りの材料となる

◎イタリア国債入札は、目標上限を発行、利回りは昨年 8 月以来の低水準で、流通市場の 10 年債利回りは 6%を下回る→ 相場への影響はなし

◎米耐久財受注額は前月比 3.0%で予想・前回を大幅に上回り、米製造業受注は予想・前回を大幅に下回る→ 相場への影響はなし

◎米新築一戸建て住宅販売は前期比-2.2%で予想・前回を大幅に下回る減少で、通年では統計開始以来 1963 年以降で最低水準→ ドル売りへ動くが非常に限定的

◎米株価は弱く前日比-22.33ドル-0.18%、ドル売りの流れが弱まり、27 日の米 GDP を控え、または、週末リスクを前にポジション調整の EUR 売りが強まる

#### USDJPY

アジア市場は、開始直後の 77.80 を高値に大枠 77.65~80 のレンジ取引から、投機筋の売りやストップを付け一時 77.50 近くまで下落した。欧州市場に入っても上値は重く、77.65 近くを高値に、77.50 以下の大口ストップを付け 77.40 台まで下落、ファンド筋の買いに下げ止まり、大枠 77.50~75 の安定した取引が続いた。米国市場にはいり、ロンドンフィクシング時には EURJPY の売りも強く 77.30 割れまで値を下げてようやく売りも終了、77.50 まで値を戻し、大枠 77.40~50 で取引が続いた。

#### EURUSD

アジア市場は、1.3090 を安値に大枠 1.3090~1.3115 の狭いレンジから、中東・東欧勢の買いに一時 1.3130 台まで上昇した。欧州市場は、欧州投機筋は 1.31 割れを試し 1.3095 まで下落、これを安値に逆に買い戻しを始め、ギリシャ民間債権者が債権交換後の利回りを、3.75% まで引き下げを提案が報道され、合意が近いとの思惑に、1.3230~50 のストップを付け 1.3170 台まで上昇、大枠 1.3135~70 のレンジで取引が続いた。米国市場では、ECB のポルトガル債購入や実需筋の買いに 1.3140 割れは底堅く推移し、ギリシャ債務交換交渉が ECB まで巻き込み、結論が見られず、1.3170 超えの上値も重くレンジ取引が続いたが、米新築住宅販売件数が弱く一時 1.3180 台まで上昇したが、利食いの売りが待ち構えごく短時間で売りへ変化、米国株がマイナス圏に入ると 1.3130 以下のストップを付け、1.3100 近くまで値を下げている。

#### AUDUSD

アジア市場は、1.0588 を安値に大枠 1.0590~1.0615 の狭いレンジで取引が続いたが、終盤にかけて 1.0640 台を回復した。欧州市場は、1.0650 近くで上値を押さえられていたが、EURUSD の上昇に 1.0680 台まで上昇、イタリア国債も順調に消化し、上値を試す展開が続いたが、1.0680 台の上値は重く、EURUSD も伸び悩み、大枠 1.0655~75 のレンジで取引が続いた。米国市場に入ってもレンジ内での取引が続いたが、米新築住宅販売件数が弱く 1.0680 台を試しながらも失敗、米株価を見ながら 1.06 台まで徐々に値を下げた。

## 金・原油価格

FOMC で低金利水準の維持を延長し継続することを発表、リスク資産の買いが強まった。最近では金価格と原油価格の動きの統一性は少なくなり、原油価格はレンジ内で推移、金価格は上昇傾向が続いている。また、金価格とEURUSDやAUDUSDとの連想性は続き、高値圏での警戒感による利食いの売りや、週末リスクを回避する動きがと、米株価の下落に上昇力も鈍くなった。

## ◎Spot.WTI(Light Crude Oil)

.WTI アジア市場は、99.67を底値に100.20まで徐々に底値を切り上げた。欧州市場は100.20台から99.40台まで下落、イタリア国債入札は順調で、欧州債券市場では利回りが低下、ドル安の流れに、前日の高値を更新し100.94まで上昇した。米国市場では、ドル安の流れや、米現物株が強く101.36まで続伸したが、利食いの売りに徐々に値を下げ、100.40を維持しながら100.40～85のレンジで取引が続いた。NYダウがマイナスに転じ、ドル高の流れへ変化すると、100.20、100.00のブレイクし、99.20近くまで値を下げ、再び100を試す動きとなっている。

## ◎Spot.Gold

.GOLD アジア市場は、1705.5を底値に大枠1706.5～1713.5のレンジで取引が続いた。欧州市場は、一時1703まで値を下げたが、1720まで上昇、1715近辺で揉み合いから、1720を超え上昇が始まった。米国市場では、現物株の上昇に1730台を試す動きが見られたが、失敗、米国株が弱く1718.6まで値を下げ、大枠1720～1730のレンジで取引が続いた。

## 昨日(1月26日)の主な発言・出来事

欧州関連
欧州連合(EU)(独ビルト紙) = ◎成長と雇用支援でEUの構造基金を活用
ドイツ政府 = ◎ドイツ、フランス、イタリア首脳は30日のEU首脳会議の直前に会談する
ユンケル・ユーログループ議長 = ◎財政協定で国民投票の実施をする可能性を否定せず ギリシャがデフォルトすれば感染につながり事態回避が必要
ドイツ政府当局者 = ◎ESMの規模は明確な上限の設定は合意済みでEU首脳会議では議題に上がらない ◎モンティ・イタリア首相はESMの規模を5000億ユーロ超に拡大を求めたが、メルケル独首相は反対している ◎ギリシャ向け第2次救済や民間債権者の債務減免協議を話し合う予定はない
メルケル独首相 = ◎経済成長と財政規律の両方追求は矛盾しない
イタリア国債入札は順調に消化 = ◎総額50億ユーロ発効 ◎2014年償還ゼロクーポン債、45億ユーロ発行、利回り3.763%(12月4.85% 昨年8月以来の低水準)、応札倍率1.714倍 ◎2014年償還インフレ連動債で利回り3.20%、応札倍率2.792倍
バイトマン独連銀総裁 = ◎ECBの大規模な国債購入はユーロにダメージが及び危険 ◎ECBを政府の最後の開始手にすることは通貨同盟の存在を危うくする
ECB = ポルトガル債を購入、関係者

ギリシャ関連
ギリシャ・エトノス紙 = ◎民間債権者は、ギリシャの無秩序な債務不履行を回避するために、交換する債券のクーポンを3.75%に引き下げることを検討
ドイツ高官 = ◎第2次ギリシャ支援のトロイカ調査団の報告は、30日のEU首脳会議に間に合わない見通しで、ギリシャがEU首脳会議で主要な役割を果たさないことを意味する
ギリシャ首相とダラーラ IIF 専務理事は26日夜会談する
アルタファイ・欧州委員会(EU)報道官 = ◎ECBの保有するギリシャ債損失に関して、トロイカでこの問題を話し合ったことはない
複数の中銀筋 = ◎ECBは保有するギリシャ債で自発的に損失を受け入れることはないが、損失負担を強制された場合の対応を協議 ◎フランス、イタリア、ECB本部は損失受け入れに反対、一部の中銀は受け入れることは避けられないとの考えもある
ECB = ◎25～26日の定例理事会で、ECB保有のギリシャ債損失の受け入れ問題をまとめるように目指す
ボリス・スウェーデン財務相 = ◎ギリシャ危機の欧州全体への影響を回避するため必要なのは、IMF(財源拡大)、ESMの強化、ECBによる非常に積極的な措置、これらの全てが必要 ◎欧州の強いコミットメントなしに2月G20でIMFの財源拡大をめぐる合意は得られない
レーン欧州委員会委員 = ◎ギリシャへの第2次支援で、民間債権者との合意内容によっては、公的部門の不足分を補う必要もある ◎2020年までにギリシャの公的債務をGDP比120%まで引き下げするために、ユーロ加盟国の各国政府や、EU関係機関が不足分を補う必要が出てくる可能性がある ◎必要な負担の分担を決定するのは公的部門の欧州の機関が下す ◎ギリシャ国債を保有する欧州の公的機関はECBのみで、ECBが決定を下す ◎協議は月内に合意に達する

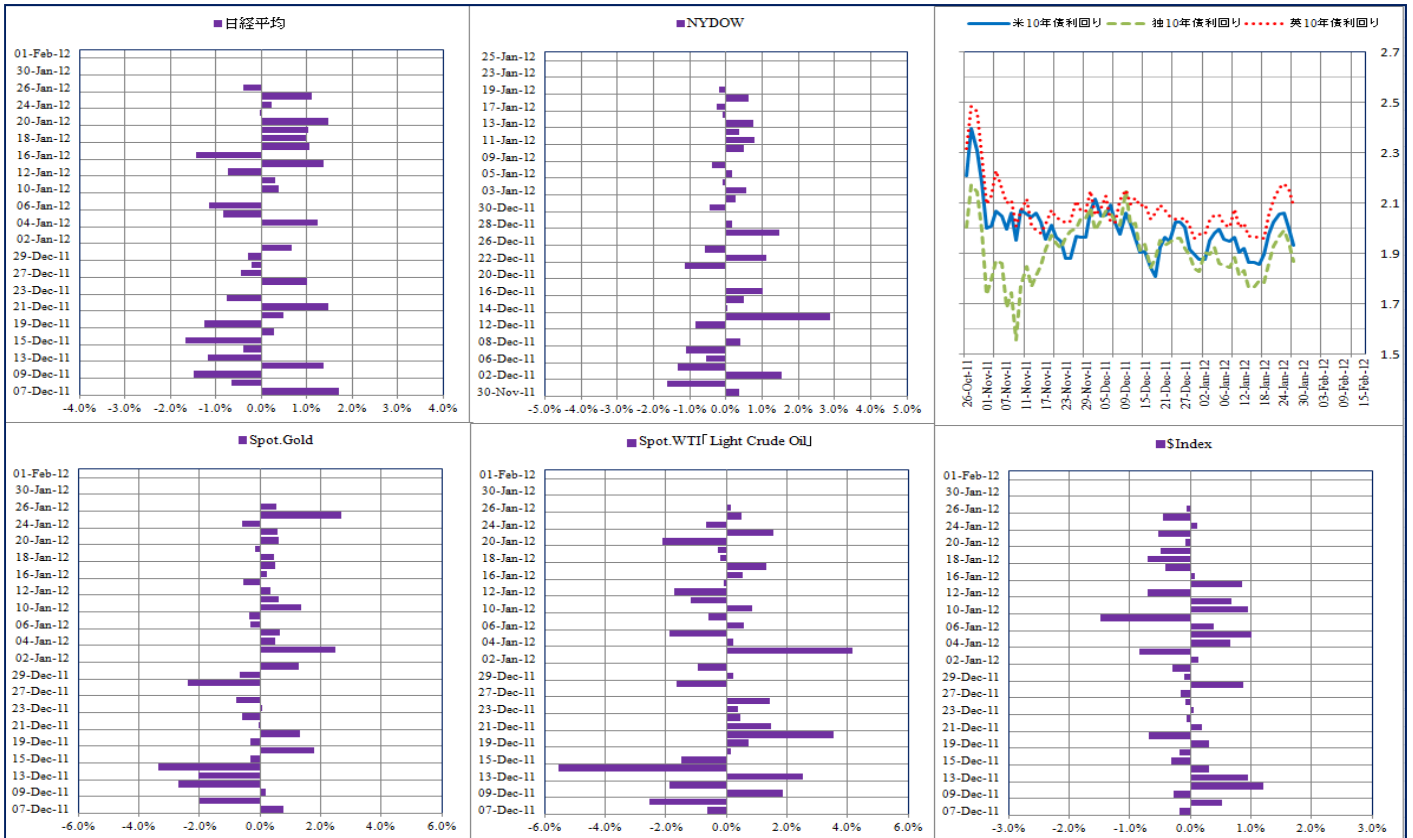
民間債権者	=◎ECB などの他の債権者にも負担を共有させるように求めている ◎関係者全てが強力するなら、我々も用意がある
ギリシャの銀行関係者・政府高官	=交渉団からは新たな提案は何も示されていない
ギリシャ銀行関係者	=◎債券協議の運営委員会が新発債の平均表面利率を最大 3.8%まで譲歩することを認められたと聞いているが、状況はふり出しに戻った ◎多くの政治家や 15 カ国の政府が異なる要求を突き付けている ◎IIF からは何も明確なことは知らされていない
関係筋	=◎2020 年まで表面利率の上限を 3.5%にし、2030 年までは 4%を上限とすることを目指し、この条件なら受け入れられる
ユンケル・ユーログループ議長	=◎ラガルド IMF 専務理事は ECB にギリシャ債務の損失負担を強く求めている ◎仮に負担しても損失規模は少ない
メルケル独首相	=◎第 2 次ギリシャ支援協議は好ましい道筋にある

USD	米国ジャンク債取引が活発化=◎米国が欧州債務危機の影響を乗り切れるとの見方が多くなり、2011 年 2 月以来の高水準となった
-----	---

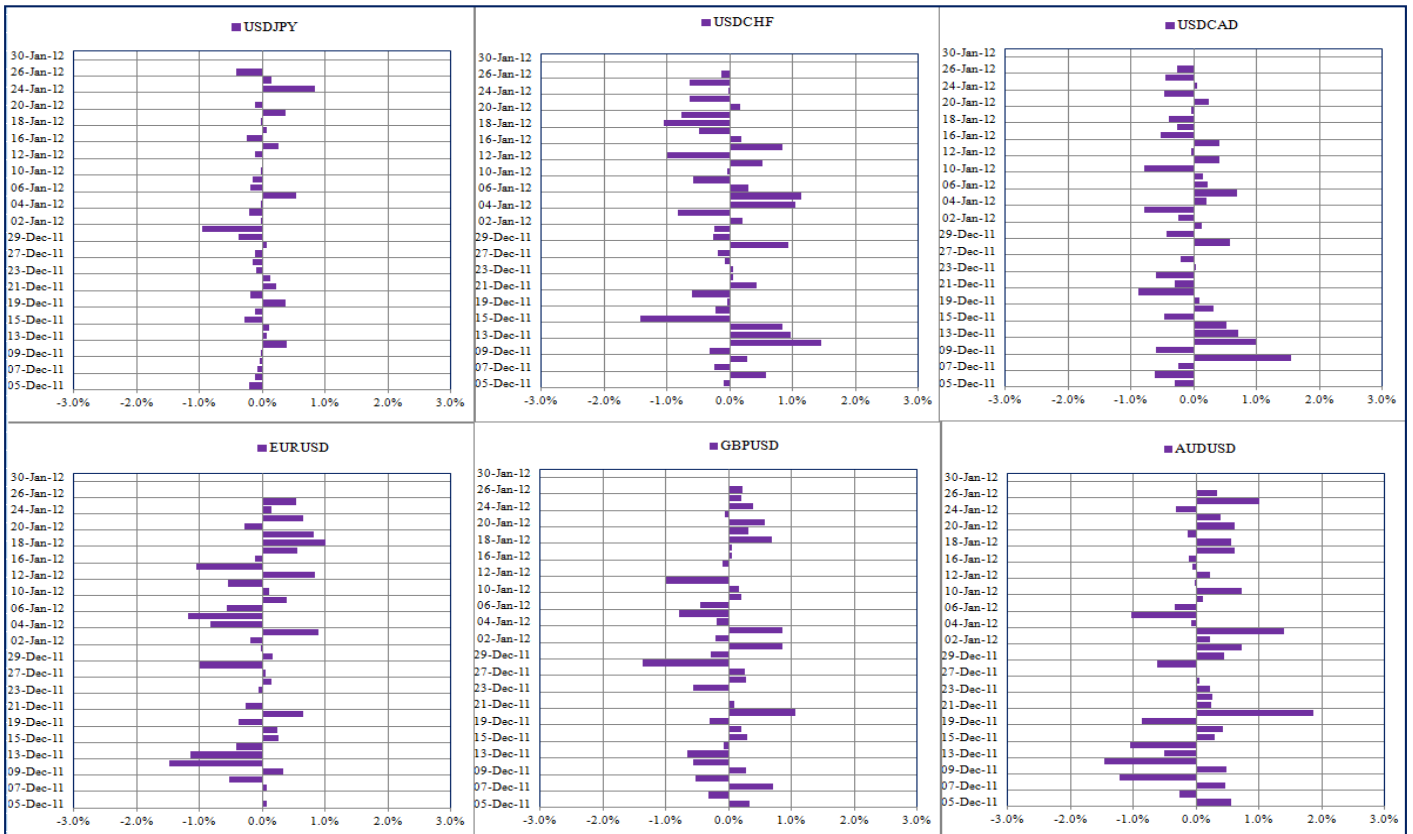
## 昨日(1 月 26 日)の経済指標と結果

5:00	NZD NZ 中銀政策金利を発表=2.5%の政策金利の据え置きを決定、予想通り
16:00	GER 2 月 GFK 消費者信頼感調査=5.9(予想 5.6 前回 5.7←5.6)
20:00	GBP 1 月 英産業連盟(CBI)報告済売上高=-22(予想-6 前回 9)
22:30	USD 12 月 耐久財受注=前月比 3.0%(予想 2.0% 前回 4.3←3.8%)、除輸送機器=前月比 2.1%(予想 0.9% 前回 0.5←0.3%)
22:30	USD 12 月 製造業受注・資本財=2.9%(予想 1.0% 前回-1.2%)
22:30	USD 週間 新規失業保険申請件数=37.7 万件(予想 37 万件 前回 35.6←35.2 万件)
0:00	USD 12 月 景気先行指数 総合指数=0.4%(予想 0.7% 前回 0.2←0.5%)
0:00	USD 12 月 新築住宅販売件数=前月比-2.2%・30.7 万件(予想 1.6%・32 万件 前回 2.3%・31.4 万件←1.6%・31.5 万件)

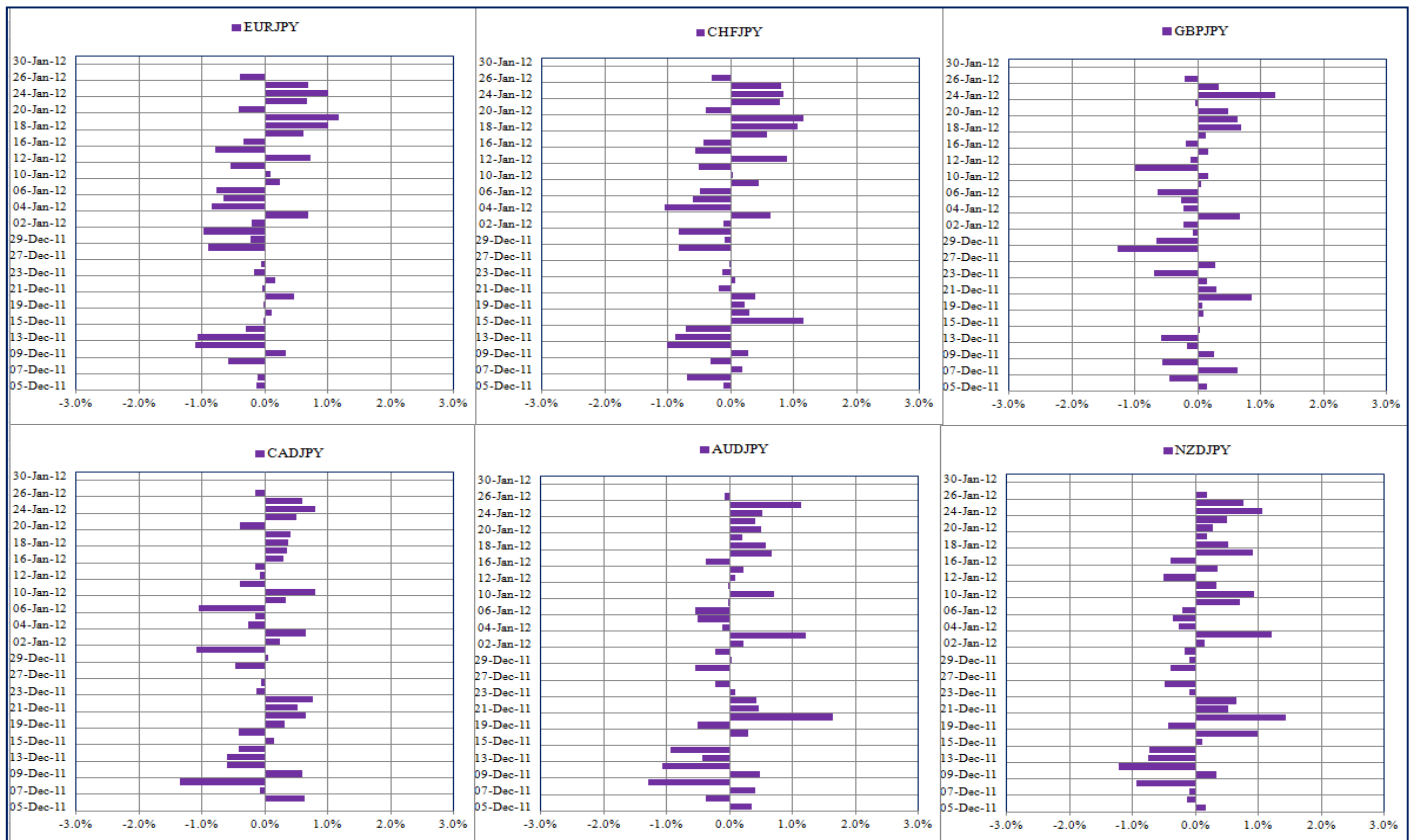
日経平均株価・NY ダウ平均株価・SpotGold・SpotWTI・\$Index の (Daily 変動率)、10 年債利回りの Daily 推移と比較



主要通貨の Daily 変動率 (%)



## 円クロスの Daily 変動率(変動率)



USD=米国、JPY=日本、GER=独、GBP=英国、CAD=カナダ、AUD=豪州、NZD=ニュージーランド、  
CHF=スイス、NOK=ノルウェー、SEK=スウェーデン、CHN=中国、FFR=フランス

本レポートで言及している市場予想の出所=fx360.com,ロイター社。各国経済指標・日時の出所=fx360.com ロイター社

外国為替保証金取引 (FX) 及び CFD には、高いレベルのリスクが潜在しており、全てのお客様に適した投資商品とは言えません。高いレベルのレバレッジは、利益ももたらしますが、損失ももたらします。預託した資金を超えて損失を被る可能性もあるため、損失に耐えられない金額を投資するべきではありません。過去のパフォーマンスが、必ずしも将来の結果を示唆しているわけではありません。

本レポートの内容は

- 情報提供の目的にのみ供されるものとし、いかなる投資商品の提供・勧誘その他法的に拘束され得る行為、また、それら投資商品の推奨、助言等を意図したものではありません。
- マーケットに関する意見・予想はその正確性や完全性についてそれらを保証するものではありません。
- レポート著者の予想・意見は必ずしも、弊社及び弊社関係者の見方を反映したものではありません。
- 筆者によって提供される市場に関する如何なる予測や見解についても、その正確性が検証されている訳ではありません。
- 当社は本レポートの内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。

GFT はお客様への一般的な情報として本資料を提供していますので、投資判断を行う際の詳細な独自調査に代えて本資料に依拠することはお控えください。

GFT は、本資料に含まれる情報に基づいた投資の結果として発生した損害に対して、如何なる責任も負いません。また、投資、法律、会計、税務、またはその他の専門的助言についても、一切提供することはありません。これらの専門的助言が必要な場合は、専門家にご相談ください。

同支店は、日本においては、グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッドとして第一種金融商品取引業者登録(関東財務局長(金商)第268号)および商品先物取引業者許可を取得しており、社団法人金融先物取引業協会および日本商品先物取引協会の加盟業者です。[www.gftforex.co.jp](http://www.gftforex.co.jp)

© 2011 グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッド 著作権/著作権所有。無断複写・複製・転載を禁ず。

CD08J.005.113011